

# 株主・投資家とのコミュニケーション

大阪ガスは、Daigasグループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けて、株主・投資家との建設的な対話が重要であると認識し、対話を促進するための施策や体制整備に取り組んでいます。IR活動を通じ、経営方針や財務状況、持続的な成長に向けた取り組みについて、適時にかつ公平にご提供するとともに、分かりやすい説明を継続的に実施し、株主・投資家とのより長期的な信頼関係構築に努めています。

## 対話の実施状況

株主・機関投資家に向けて、四半期毎の決算説明会を実施しています。WEB会議を通じた配信や、ホームページでの質疑内容の開示(日本語・英語)等、継続的に情報開示の改善を実施しています。

また、経営幹部とのスモールミーティング、ESGや事業活動など資本市場から関心の高いテーマに特化した説明会、機関投資家との個別のIRミーティングなどを適宜実施しています。2023年度の事業説明会では、「電力事業」をテーマに、担当部門からの詳細説明を行いました。

これらの活動を通じて、経営幹部が株主・投資家と直接対話を行うとともに、IR担当部署が日頃の活動を通じて得られた株主・投資家からのご意見や経営課題のご指摘については、定期的に、取締役会および経営幹部、また幅広く社内へ報告し、適切に経営に反映するように努めています。

### 2023年度の主な対話のテーマ

- 中長期の事業戦略(ROIC経営の進捗、脱炭素社会への対応等)
- 財務戦略(資本構成の考え方、株主還元方針等)
- 直近の業績(各セグメントの状況等)
- ESGの取り組み(CO<sub>2</sub>排出量、再生可能エネルギー普及貢献量、人的資本戦略、ガバナンスの取り組み等)

## TOPIC

### 社外取締役と機関投資家との対話を実施

当社のガバナンスの実態をご理解いただく一助として、2024年3月22日に社外取締役スモールミーティングを初めて開催し、村尾取締役が機関投資家(9名)と対話を行いました。

当日は、中期経営計画策定における取締役会での議論の状況や、2026年度の目標に関する社外取締役からの評価、監査等委員会設置会社への移行に関する見解といった質問に対し、村尾取締役が、ガバナンス改革を主導してきた社外取締役としての視点から回答を行いました。

参加者からは、「村尾取締役の気持ちが伝わる良いミーティングだった」「当社経営に対する理解がさらに深まった」「社外役員の生の声を聞ける機会は貴重であり、今後もこういった機会を設けてほしい」という声が寄せられました。



## IR活動の体制

### (i) 統括責任者

株主・投資家との対話は、代表取締役 副社長執行役員 経営企画本部長が統括します。

### (ii) 推進体制

責任組織として企画部のIR担当部署が中心となり、対話のテーマに応じて財務部、広報部、総務部等のコーポレート部門と各事業部など関連組織が有機的に連携のうえ、実施しています。

### 2023年度活動実績一覧

代表取締役社長	株主総会、機関投資家向け決算説明会(2回)・中期経営計画説明会、社長スモールミーティング、海外機関投資家との対話(6回)
代表取締役副社長執行役員 経営企画本部長	株主総会、海外機関投資家との対話(11回)
社外取締役	機関投資家とのスモールミーティング
IR担当部署	機関投資家向け決算説明会・経営計画説明会・事業説明会、機関投資家との対話(国内機関投資家 約120回、海外機関投資家 約30回、セルサイドアナリスト 約20回)、開示対応、個人投資家からの問い合わせ対応 等
総務部	国内株主との対話(13回)